

自由のともび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 89

2020 September

10周年記念行事
谷千城閣下のお昼ご飯



25周年記念
25年の歩みと蔵出し資料展開催



1990年3月31日 落成式の日

- 高知市立自由民権記念館開館30周年記念
ポスターで振り返るこれまでの歩み
- 高知市立自由民権記念館開館30周年記念企画展
楠瀬喜多没後100年「民権ばあさんと女性参政権」
- 企画展「漫画」が描いた明治の時代」
- 資料紹介「片岡健吉宛板垣退助書簡(文久2年)」

■リレーエッセイ

高知市立自由民権記念館 開館三〇周年に思う

高知市立自由民権記念館開館三〇周年、おめでとうございます。記念館は、一九九〇年四月、「高知市制百年」を記念し、「自由民権百年」の熱気の中で誕生しました。

三〇周年を記念するにあたり、記念館建設を願う、燎原の火のように拡がっていった記念館建設運動に関わった多くの人々のことを思い出し、明治の自由民権運動を担った先人達と同様に、この自由民権記念館建設運動を担った、昭和の先人達のこととも忘れてはならないと思います。

高知市民憲章のパネルを市内小学校の玄関等に飾ってあるのを見ることがあります。そこには「この美しい山河に、わたしたちの先人は、自由民権の思想を開花させました。それは近代日本のこのころのふるさとでもあります。わたしたちは、いま、この貴重な先人の遺産のうえに：(略)：前進します。」と書かれています。また、一九八六年の市制施行百周年記念事業検討委員会は提言に「わたしたちは、この市が近代日本のこのころのふるさととなった自由民権運動のまっただ中で発足したことを誇りとすると述べています。私たちは、高知市と自由民権運動の関係について思いを馳せることができます。」

またこの機会に国連の発行した「世界の平和博物館を紹介する冊子」に記念館が紹介されていることを思い出してほしいです。高知新聞には、当時の館長関田英里氏が「自由と民主主義の思想をアジアで最も早く取り入れた高知の先人を世界の人々に知ってもらう機会になれば」と話している」と紹介されています(1995年12月20日付)。

さて「明治維新一五〇年」の次は「民権一五〇年」。記念館の出番です。新型コロナ禍が心配ですが県民・市民を巻き込んだ企画を立ち上げて、自由民権運動に関心を持っている人々を高知に呼び込みたいものです。

高知市立自由民権記念館友の会 会長 岡林登志郎

高知市立
自由民権記念館
開館30周年記念

ポスターで振り返る これまでの歩み

1990（平成2）年4月1日に高知市制100周年記念施設として開館した自由民権記念館は2020（令和2）年で30周年を迎えました。これまで、当館は「人々が土佐の自由民権運動の歴史と伝統に学び、その意義を現代及び未来に生かすのに役立つ」博物館となるべく、数多くの特別展・企画展を行ってまいりました。紙面の都合で全てをご覧いただくことはできませんが、その一部をポスターで振り返ってみたいと思います。

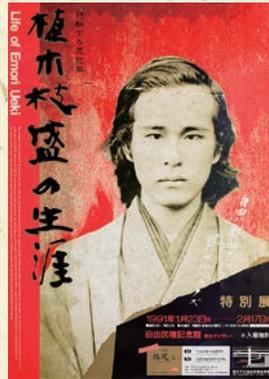
高知市制
100周年



◀1993（平成5）年
特別展
「自由の足跡
—福島・神奈川
と土佐—」



▲1992（平成4）年
特別展「初期議会と
選挙大干渉展」



▲1991（平成3）年
特別展「植木枝盛の生涯」



▲1990（平成2）年 開館

1997（平成9）年▶
特別展
「谷干城のみた明治」



▲1998（平成10）年
特別展「立志社
—その活動と憲法草案—」



▲1996（平成8）年
特別展「明治の女性展」

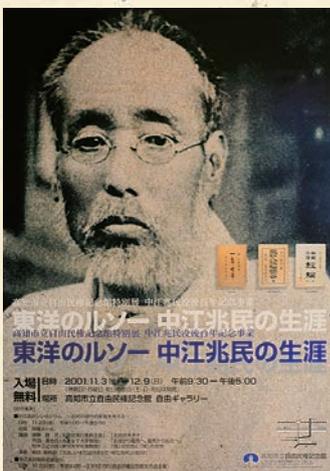


▲1995（平成7）年
企画展
「第1回収蔵資料展」



▲1994（平成6）年
開館5周年記念特別展
「板垣退助展」

2002（平成14）年▶
生誕150周年記念特別展
「立憲政治の先駆者
小野梓展」



▲2001（平成13）年
特別展「東洋のルソー
中江兆民の生涯」

開館
5周年

開館
10周年



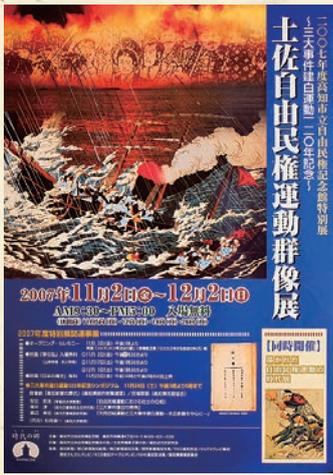
▲2000（平成12）年
開館10周年記念特別展
「ニッポン・モダン・ライフ100年」



▲1999（平成11）年
特別展
「岡崎精郎の生涯」



◀2003（平成15）年
特別展
「来日120年記念
明治の面影
フランス人画家
ビゴールの世界」



▲2007 (平成19) 年
特別展「一三大事件建白運動120年記念—
土佐自由民権運動群像展」



▲2011 (平成23) 年
企画展「板垣退助愛蔵品展
—「板垣死ストモ」時空を超えて—」

2015 (平成27) 年▶
特別展「ハワイに高知城を
たてた男 奥村多喜衛展」



▲2016 (平成28) 年
企画展「在伯同胞活動実況大写真帖」
—竹下増次郎、ブラジル日本移民を写す—



◀2020 (令和2) 年
開館30周年記念企画展
楠瀬喜多没後100年
「民権ばあさんと
女性参政権」

2019 (平成31・令和元) 年▶
高知市制130周年記念企画展
「町並みと暮らし展
—地図と写真でたどる
高知市—」



▲2006 (平成18) 年
特別展
「大正デモクラシーを
かけぬけた青春群像
高知県社会労働
運動史展」



◀◀2010 (平成22) 年
志の時代展
龍馬の遺志を継ぐもの
(全4回)



▲2014 (平成26) 年
第3回収蔵資料展
「市民からの贈りもの」



▲2005 (平成17) 年
特別展
「次世代につなぐ自由民権
民権百年から120年への
軌跡展」



▲2009 (平成21) 年
特別展「土佐が誇る名優
澤田正二郎展」



▲2013 (平成25) 年
企画展「日清戦争とメディア」



▲2004 (平成16) 年
特別展「自由民権と土佐
高知新聞の100年」



▲2008 (平成20) 年
特別展「ブラジル日本移民
100周年記念写真展
新渡世に渡った日本人」



▲2012 (平成24) 年
企画展「憲法発布と錦絵」



◀◀2017 (平成29) 年~
2018 (平成30) 年
「志国高知 幕末維新博」
関連企画 (全7回)

楠瀬喜多没後一〇〇年

「民権ばあさんと女性参政権」

◆期間 令和二年一月二〇日(土)

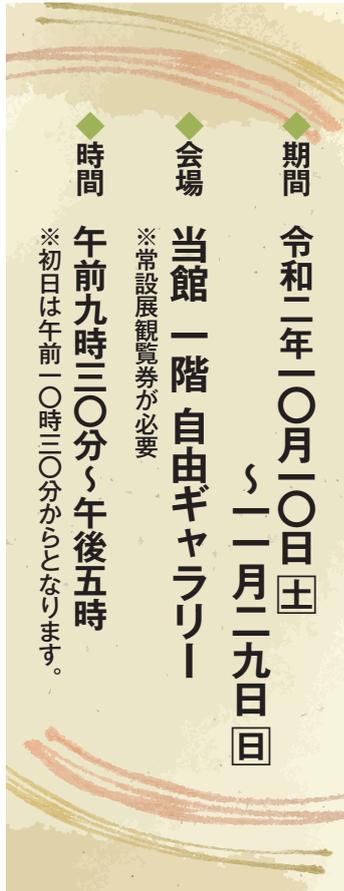
～一月二九日(日)

◆会場 当館 一階 自由ギャラリー

※常設展観覧券が必要

◆時間 午前九時三〇分～午後五時

※初日は午前二〇時三〇分からとなります。



楠瀬喜多の墓に詣てた頭山満翁(当館蔵)



楠瀬喜多肖像写真(当館蔵)

あわせて、本展で女性参政権を取り上げるに至った理由は、もう一つあります。それは、日本で初めて女性参政権が実現した場所が、ここ高知市にあるということです。

喜多が女性参政権を訴えた二年後の明治一三年、高知市上町町会は、女性にも選挙権を与える内容の町会規則を定めました。そして、県庁にその裁定を求めたところ、県庁は、参政権は男性に限定するよう指示します。これを受けた上町の人々は、三か月 にわたって県庁と議論を続けました。その粘り強い交渉により、ついに上町で女性参政権が実現され、それに続いて小高坂村会でも、同様の規則が定められました。

ところが、明治一七年、政府は「区町村会法」の改正を行います。地方が自ら規則を定められなくなったと同時に、参政権は男性にのみ付与するこ

開館三〇周年を迎えた今年、令和二年は、日本で初めて女性参政権を要求した女性、楠瀬喜多の没後一〇〇年の年でもあります。そこで当館では、一〇月一〇日から、企画展「民権ばあさんと女性参政権」を開催いたします。

喜多は、生前から「民権ばあさん」と呼ばれて親しまれた、高知市出身の女性です。

彼女が有名になったのは、明治一年のこと。喜多が県庁に対して、女性戸主の選挙権を訴えた、という新聞記事がきっかけでした。彼女は「男性と

同じように戸主として納税しているのに、女性というだけで選挙権がないとおかしい」と考えたのです。これ以降、喜多は、日本で初めて女性の立場から女性参政権を訴えた人物として広く知られることとなりました。

現在でも、喜多の知名度は民権期の女性の中で群を抜いています。高知市の小学六年社会の教科書では板垣退助と並んで紹介されていますし、昨年の喜多の誕生日にはGoogleのトップページに採用されたことも、記憶に新しいところですね。

喜多は、頭山満や河野広中など、著名な民権家と深い交流を持ち、自家を

宿として提供するなど、自由民権運動を側面的に支援した人でもありました。それだけでも「民権ばあさん」と呼ばれるに至った理由が理解できそうですが、実は喜多自身も熱心な勉強家であったということも余り知られていません。演説をした記録こそ伝わっていないものの、立志社の演説会や土佐州会に足しげく通い、帝国議會を四度傍聴した彼女の姿勢は、当時の新聞で紹介されるほどでした。



『東洋之婦女』
(個人寄託/当館保管)



世界婦人(当館蔵)

と、とされたのです。以降、女性の選挙権を認める動きは全国的に見られなくなりました。そして、明治二二年の「集會及政社法」では、選挙権だけでなく、女性の政治参加の道までも全て閉ざされることになりました。

こうした社会の動きの中で、女性たちは、女性の社会的権利を自覚し始めます。そして、大正期以降は、旧来の概念に捉われない新たな女性像を模索しながら、女性の権利獲得のために、様々な運動を展開しました。本展では、喜多の資料はもちろんのこと、岸田俊子を始めたとする女性民権家や、平塚らいてう、市川房枝ら女性先覚者が伝えた資料から、戦後、女性が参政権を獲得するまでの歩みを、今一度振り返ります。そして、その歩みの中で、



『婦選』(当館蔵)

愛国婦人会
高知支部たすき
(当館蔵)



近年、ジェンダーの観点から全国各地の博物館で展示内容が見直され始めています。当館の常設展示室には、喜多の紹介のほか女性民権家の資料を展示していますが、女性に関する資料を中心に取上げた企画展は、平成八年「明治の女性」展以来、実に二五年ぶりとなります。開館三〇周年を迎えた今年、民権期あるいは近代の女性に関する資料を御紹介できることは、当館としても非常に意義のあることと考えています。明治から昭和まで、激動の時代を生きた女性たちが伝えた貴重な資料を、是非この機会にご覧ください。

土佐の自由民権運動が果たした役割や、女性参政権運動の今日的な意義を見つめ直します。

*

女礼式画帳(当館蔵)



企画展オープニングセレモニー

開館30周年及び企画展開幕を記念して、テープカットを行います。またセレモニー当日は、展示全室を無料で御観覧いただけます。

日時

10月10日(土) 午前10時30分～

会場

1階 自由ギャラリー前

学芸員トーク 本展担当学芸員による展示解説を行います。(事前申込不要)

- 日時：10月10日(土) ①午前10時45分～11時15分
②午前11時30分～正午

記念講演会 「幕末維新と楠瀬喜多」

- 日時：10月18日(日) 午後2時～4時
- 会場：1階 民権ホール
- 講師：中脇 初枝氏 (作家)、公文 豪氏 (土佐史談会副会長)
- 定員：60名 (当日先着順、事前申込不要)

模擬投票コーナー 高知の自由民権運動家が候補者となる選挙を行います。

- 日時：10月10日(土)～11月29日(日)
- 会場：1階 自由ギャラリー前

※実際に選挙で使用する投票箱や記載台を使って投票していただきますので、小・中・高校生にも「選挙」を体験していただけます。

◆ 片岡健吉宛板垣退助書簡(寄託)

本資料は、幕末期に板垣(乾)退助(一八三七〜一九一九)から、片岡健吉(一八四三〜一九〇三)に宛て送られた書簡である。末尾に記された日付は六月三日。書簡中の記述から一八六二(文久二年)に書かれたものであると判断できる。この年、退助は山内容堂の御側御用役として江戸で勤務していた。

一般に「幕末期」とは一八五三(嘉永六年)のペリー来航から一八六八(慶応三年)王政復古大号令までを指す。その中でも文久年間(一八六一〜一八六三)には水戸浪士による老中安藤信正襲撃(坂下門外の変)や、薩摩藩士によるイギリス人殺傷(生麦事件)など現代まで伝わる重大事件が多く発生している。本資料は、まさに



板垣退助肖像(個人寄託/当館保管)

そんな動乱期の様子を書き記したものだ。

まず、書簡中に見える出来事として一八六二(文久二年)四月の島津久光率兵上洛がある。「薩州様者陪審(おんかた)の御方二而猥(みだり)二勅命を受」とは、薩摩藩が朝廷から受けた不穩浪士鎮撫の勅を指すものだろう。この年、薩摩藩の実権を握っていた国父・島津久光は公武合体実現へ向けた幕政改革進言のため、藩兵を率いて京都を訪れた。この久光の率兵上洛は、今日では幕末史の重大な転換点として語られる。しかしながら、書簡に記された退助の所感には「天下を蔑(なげ)二致(いた)権威を震(ふる)却(かえ)夷狄(えいてき)之禍(わざ)を慮(おもん)り不申」と冷やかか、薩摩藩への評価は決して高いものと言えない。むしろ、思慮足らずの行動と弾じているのが印象的だ。

退助はこの他にも將軍上洛の噂や、松平春嶽の幕府登用、第二次東禪寺事件など当時の出来事について書き残している。その中でも注目したのは、長州藩士・長井雅楽切腹の一報だ。同書には「何か事を誤(あや)り申し候(まう)と見(み)へ而(な)先(せん)日(じつ)切腹(せつぷく)を致(いた)し候(まう)趣(おも)む」

と記されている。雅楽は、この頃藩論の転換により窮地に陥り、その処罰が検討されていた人物であった。しかし、実際に切腹したのは文久三(一八六三)年二月六日。つまり、「切腹」は「誤報」だったのだ。そして、この書簡から僅か三日後、六月六日付で退助は健吉に対して「長井雅楽之切腹は虚説(きよせつ)の趣」と訂正の書簡を送っている。当時、江戸でいかに情報が錯綜(さくそう)していたかがうかがえる。

書簡全体を通して読むと、幕末の動乱期に生きた退助の息遣いが聞かえてくるような臨場感が味わえる。友人に宛てた書簡であるからこそ記される退助の率直な意見、その筆致からは、後に自由民権運動を指導してゆくことになる彼が、幕末の動乱の中で何を見て、どう感じていたのか、その視線を垣間見ることができらるだろう。

展示予定

● 期間 令和二年(2020年)10月10日(土)

〜2月26日(土)

● 場所 二階 第二展示室



企画展 “漫画” が描いた明治の時代

開催中!

◆期間 開催中～令和3年3月28日(日)

◆会場 2階 特別展示室

本企画展では、明治時代に描かれた風刺漫画を中心に、約50点の資料を展示しています。最初のコーナーでは、明治の風刺雑誌『團圓珍聞』の作品を当館所蔵資料やパネルで紹介。自由民権運動の高まりやそれに対する厳しい言論弾圧など、当時の様子が絵から伝わってきます。また、じっくり見ると絵の中にいろいろな仕掛けが隠されていることがわかります。例えば、「民権」を「蟬」と「剣」、ある時は「蟬」と「犬」に見立てるといった言葉遊びのような手法が用いられています。絵解きを楽しみながら、明治の社会や世相を感じ取っていただけのではないのでしょうか。

続いて、フランス人画家・ビゴアの貴重な水彩画等や教科書にも掲載されている有名な風刺画を展示しています。来日以降、17年余にわたり日本を描き続けた、外国人・ビゴアの視点から当時の日本に対する風刺を見ることができます。

その次に、高知における新聞挿絵の先駆者として活躍した山崎年信とその弟子である藤原信一の作品を紹介しています。5月から延期していた記念講演会「汗血千里の駒」の挿絵画工 山崎年信の画業」は、令和3年1月30日(土) 14時から行います。

最後のコーナーでは、後世の漫画家たちが描いた紙芝居や肉筆漫画を展示しています。壁面を使って紹介しているのは、

自由民権運動の再燃といわれる三大事件建白運動を描いた紙芝居です。時代考察を重ねて製作された紙芝居は、展示を見た方から分かりやすいと大変好評です。また、大正・昭和を代表する画家・漫画家たちが開国以後の歴史を振り返った肉筆漫画は、全部で50枚からなるものですが、会期中の入替えを予定しています。

企画展のアンケートでは、「当時の様子が絵を通して理解できた」「明治時代の“漫画”は、今見てもおもしろい」といった感想をいただいています。このように“漫画”は、視覚的に分かりやすく、時代を伝える歴史資料の一つと言えるでしょう。



民権家入物録



みやざき のぶまさ
宮崎 宣政
(1868～1944)

(『自由民権と土佐
高知新聞の100年』より転載)

一八六八(慶応四年)八月二〇日、高知市で出生。幼名は卯之介、号は晴瀾。森槐南門下の四天王筆頭といわれた漢詩人で、ジャーナリストとしても知られており、「民権はあさん」桶瀬喜多の甥にあたる。

宣政は、一八八九(明治二二年)年、西田楠吉や福留鉄蔵とともに明治法律学校第一年級に在籍(同年二月二十五日付「高知日報」)しており、大学時代は読書欲の旺盛な秀才であったという。上京時には、喜多も同行したため、板垣退助や河野広中を始め、多くの有力者と知遇を得る好機となったと考えられる。なかでも宣政は、特に河野広中にその才能を認められ、明治法律学校卒業後(一八九一年以後と推定)、板垣退助夫妻の媒酌により、河野の長女・高子を妻に迎えている(後、離婚)。

宣政のジャーナリストとしての経歴をみると、『長野新聞』や『東海日日新聞』で主筆を務めた後、一八九〇(明治二三年)年一〇月二〇日創刊『自由新聞』(第二次)で主筆を務めており、特に中江兆民とは深い親交関係にあった。また、自由党分裂後は、翌一八九一(明治二四年)四月二二日創刊『自由』の記者となり、一八九三(明治二六年)年七月一日創刊の

『自由新聞』主筆を務めていたが、自由党との関係が断絶した時点で退社した。一方、茨城県の川崎柴山が一八九二(明治二四年)年九月九日に創刊した『経世新報』記者ともなったが、同紙はまもなく廃刊し、一八九七(明治三〇)年には『東京新聞』にも関係した。

他方、宣政が、一九〇三(明治三六年)年二月一〇日開催の第一九回帝国議会通常会を、翌日解散に導いた桂太郎内閣弾劾の奉答文の起草者であったことは、議会上、注目すべき事実である。起草者の選定には、当時、第一二代衆議院議長を務めていた河野広中が関係したとみられている。

その後、宣政は、実業界に身を転じ、銅山経営で一時期成功を収めていたが、一九二三(大正一二)年頃、事業から撤退したため、社会的信用を失うこととなった。こうした失意の状況のなか、東京目白を歩いていた時、伊藤博文や大隈重信も帰依した「釈雲照律師」という明治の傑僧との偶然の出会いをきっかけに、宣政は、人として生まれ変わる事となる。

釈雲照律師の教えをうけ酒を断った宣政は、「詩を作るよりは田を作る」ことを志し、一九二七(昭和二年)一月二八日から一九三四(昭和九年)年八月一日の間、北海道天塩郡天塩町の約五六〇ヘクタールの広さを持つ更岸沼を開拓する事業に従事して成功を収め、『東京朝日新聞』に「天感雑感十首」を発表した。晩年は東京に居を移し、一九四四(昭和一九)年二月二日、東京小石川区原町三一番地で死去した。享年七七歳。

著書に『老妖僧』(一八九〇年)、『瑣克拉的(ソクラテス)』(一八九三年)、『晴瀾焚詩』(一八九六年)などがある。

出版物のお知らせ

開館30周年記念出版

『板垣退助伝記資料集』

第1巻～第6巻 刊行

郷土の偉人であり、自由民権運動の指導者である板垣退助に関係する重要な史料をほぼ網羅した資料集です。開館30周年を記念して3年間で全18巻を刊行する予定となっています。今年は第1巻(天保8年)から第6巻(明治21年)までを刊行します。

本資料集の刊行を受け、今後ますます板垣研究及び近代史研究が深化してゆくことを期待しています。

博物館実習の実施

当館では、学芸員資格取得に必要な博物館実習を必要とする学生の受け入れを行っています。今年度は、2名の学芸員実習生の申込みがあり、資料整理や展示入れ替えなど実践的なカリキュラムに取り組みました。

第2展示室 ミニ企画展開催のお知らせ

当館2階の第2展示室一角で展示替えを行い、ミニ企画展を開催中です。

8月から10月上旬までは、「自由民権運動の時代と漢詩」と題して民権家たちの詠んだ「漢詩」に着目した展示を行っており、谷干城や中島信行の漢詩書軸のほか、自由新聞附録などの実物資料をご覧ください。また、10月10日(土)から12月26日(土)までは新しく寄託を受けた「片岡健吉宛板垣退助書簡」を展示する予定です。



行事予定 (秋・冬)

予定は変更になる場合があります。詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。

◆は当館内自由民権記念館友の会事務局にお問い合わせください。

※新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、延期・中止とさせていただきます。

開催中～2021(令和3)年3月28日(日)

■企画展

「“漫画”が描いた明治の時代」

会場：2階特別展示室
※常設展観覧券が必要

10月10日(土)～11月29日(日)

■高知市立自由民権記念館 開館30周年記念企画展

楠瀬喜多没後100年

「民権ばあさんと女性参政権」

会場：1階自由ギャラリー
※常設展観覧券が必要
※10月10日のみ午前10時30分開場

10月10日(土) 13:30～16:00

要申込
先着60名

◆高知市立自由民権記念館 開館30周年記念

第20回「県詞の日」記念講演会 (友の会設立30周年記念)

「自由民権期の憲法草案に、いま 学ぶことー「五日市憲法」発見50年 をふりかえりながらー」

講師：新井勝紘氏
(全国みんけん連顧問・元専修大学教授)
会場：1階民権ホール



10月18日(日) 14:00～

■高知市立自由民権記念館 開館30周年記念企画展 「民権ばあさんと女性参政権」記念講演会 高知近代史研究会第102回研究会

「幕末維新と楠瀬喜多」

講師：中脇初枝氏(作家)
公文 豪氏(土佐史談会副会長)
会場：1階民権ホール
定員：60名(当日先着順、事前申込不要)

11月28日(土)・29日(日)

■2020年度社会経済史学会 中国四国部会大会

高知近代史研究会第103回研究会/ 社会経済史学会共催

- 11月28日午後
自由論題報告
- 11月29日午前
共通論題「海外移住・移民から
見た高知近代史とその史料」

報告：吉尾寛氏(高知大学特任
シニアプロフェッサー)
石畑匡基氏(高知県立歴史民俗資料館)
村中大樹氏(大阪大学大学院博士課程)
会場：1階民権ホール

12月13日(日) 10:00～

◆「兆民忌」

集合場所：高知市筆山登り口(雨天中止)
筆山にある中江家墓所の清掃と墓参り

12月20日(日) 13:30～

要申込

◆第24回 民権まつり 「土佐風を作ろう」

会場：1階自由ギャラリー

1月4日(月) 14:00～

◆第24回 民権まつり 「土佐風を揚げよう」

場所：鏡川北岸トリム公園(雨天中止)

1月23日(土)～2月28日(日)

■第21回社会科自由研究作品展

会場：1階自由ギャラリー
市内小中学生の社会科に関する研究作品を展示

1月23日(土) 10:00～

◆「無天忌」

集合場所：高知市小高坡市民会館(雨天中止)
山ノ端町にある植木枝盛の墓所の清掃と墓参り

1月30日(土) 14:00～16:00

■企画展「“漫画”が描いた 明治の時代」記念講演会

高知近代史研究会第104回研究会

「汗血千里の駒」の挿絵画工 山崎年信の画業」

講師：中村茂生氏(高知近代史研究会会員)
会場：1階民権ホール
参加者には、『藤原信一挿絵等資料集』を
進呈します。